

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	自分や家族・友人が利用したいと思うサービスを提供します。 通所・宿泊・訪問この3つを自由にその方にとって必要な支援を組み合わせ てその時の体調や状況によって柔軟なサービスを提供しています。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護深沢	管理者	松田 悠一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団 体	利用者	利用者家族	地域包括支援セン ター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	人	1人	人	3人	人	8人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 の確認	・事業所自己評価の改善計画の 進捗状況を確認する担当職員 を決め、毎月の事業所ミーテ ィング時に職員間で共有・確 認し、計画を進めていく。	・毎月のミーティングにて職員間で共 有確認しながら進めたが、限られた 職員にしか共有できない内容もあっ た。 地域行事の参加については職員間で 共有でき、積極的に参加できた。	・改善計画がより、具体的で実効 しやすい内容だと良い。	・事業所自己評価の項目毎に 担当を決め、毎月のミーティ ングで進捗状況を確認して いく。今年度「できていない」 の評価が多かったご利用者 の理解に力を入れて取り組 む。
B. 事業所の しつらえ・環境	・ご利用者と一緒に季節の装 飾の計画を立て、創作活動 や飾りつけを行う。ご利用 者と一緒に装飾の評価をし ていく。	・ご利用者と一緒に季節の装飾の計 画を立てる事は出来なかったが、創 作活動や飾りつけは、ご利用者と一 緒に行う事が出来た。季節を感じて 頂く装飾、雰囲気作りは実践するこ とが出来た。	・入ると様々な作品があり、良い 雰囲気。 ・作品など入口があたたかな 雰囲気 ・音やにおいにもについても特に なし。 →DS、小規模と作品が2度見れる 環境になっている。 ハナミズキの花も好評だった。 ・建物玄関の案内、表示につい て、児童館においては不審者な ど誰が入ってきたか分からない 問題がある。 ・玄関の靴の脱ぎ場所がわかりに くい。 →施設としても締め切ってはいけ ないので難しい面もある。 入口に事務所がなく、内線で取 り次いでいるが案内の掲示の仕	・ご利用者に季節を感じる装 飾や居心地の良い空間を聴 きながら一緒にしつらえに ついて検討していく。

			方など工夫が必要。	
C. 事業所と地域のかかわり	・コミュニティセンターや地域の行事に、ご利用者と一緒に参加を継続していく。 ・回覧板を使用して事業所の紹介を行っていく。	・コミュニティセンターの行事や展示会にご利用者と参加する機会を頂いた。 ・地域の活動の中で出来る事をコミュニティセンターや町内会に発信し、介護教室等を開催することは出来なかった。	・11/3 深オコミセン、11/10 青葉台コミセン作品展示に参加。ご利用者も直接地域の活動に参加できると良い。 - また、ご利用者と近所の方々のパイプ役に職員がなれると良い。 ・介護相談について、相談は包括支援センターに来られることが多い。 - 介護保険証が届くと封筒の中に相談先リストが入っている。今年から小規模もリストに入るようになった。 ・事業所の周知の活動として、事業所の紹介を回覧板に載せた。 - また、長峰地域で食の第三者評価を行った。 - また、まちのねで介護教室を行った。社会資源、フレイル予防や地域の方が求めていることを聞き取っている。	・深沢ブロックやサポートセンターで行う地域への啓発活動と通じて地域との関係を築いていく。 ・コミュニティセンターや地域の行事に、ご利用者と一緒に参加を継続することで地域との関係を築いていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	・個別の関わりの中でつながりを継続できるように訪問、送迎時に近所の方と話す機会を持ち関係性作りを継続していく。	・一人暮らしのご利用者の近所の方は、訪問、送迎時に話す機会があったが関係性の構築までは出来なかった。 ・地域への外出を計画し、ご利用者の馴染みのある場所や興味のありそうな場所に出向くことは出来た。	・小規模深沢は訪問を多く行っているが、訪問の際に地域の方とのパイプ役、相談役になっていけると良い。 ・社会資源での関りの方以外の方と話す際に個人情報聞かれることもあるのか。（この家は今どうなっているの？）など。 →地域交流スペースのあるサポートセンターでは、近所の方が入ってくるので誰が利用しているのかわかることもある。	・ご利用者の以前の生活を知ることによって地域の行きつけの店や馴染みの風景を見つけ出向く機会を作る。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	・多くの職員が運営推進会議に参加する機会を継続して作る。 ・事業所の支援事例を通じて、地域の困りごと等の共有や検討を行う。	・地域の取り組みや、事業所の支援事など、意見交換ができた。 - また、管理者や介護支援専門員以外の職員も参加することが出来た。頂いた意見等は事業所内で回覧し職員間で情報の共有を図った。	・サロンに出向いて、伝えていつでもよいのではないかな。 ・様々な行事や作品作りに参加しており、参加の様子を会議においても詳しく知りたい。	・運営推進会議に複数の職員が参加できるように調整していく。 ・事例検討を行うことで地域の方から意見をいただき、地域の困り事や意見を吸い上げる機会を作る。
F. 事業所の 防災・災害対策	・一人暮らしのご利用者の災害時の対応や避難計画等をまとめた個別避難計画を作成する。	・地域の防災訓練に参加することは出来なかったが、運営推進会議で地域の防災の仕組み等を教えて頂き、職員間で共有することが出来た。 ・水消火器を使用しての訓練等をご利用者と一緒にすることは出来なかった。	・防災訓練の様子がわかると良い。 ・サポートセンター深沢は災害時に一時的な避難所になる。 ・地域の情報共有連絡手段について、町内全員にLINEでつなぎ、情報共有している。また、電子回覧板の活用も検討している。 ・長峰地域は回覧板がまわるまで半月程かかる。 ・深オコミセンにおいては、崇徳大学の学生からスマホ教室を行っている。 ・災害時において情報の共有手段を具体的に決めておくといい。 ・コミセンへの連絡文書もメールでも良い。	・災害発生時のフローチャートを作成し職員 1 人ひとりが行動できるように周知、訓練を行う。 ・地域の方に防災訓練の様子を運営推進会議時に見学いただく。